

令和 5 年度第 2 回推進会議において出された意見と今後の方向性

【テーマ】 医療・介護の連携を進めるにあたり、4つの場面（①日常の療養支援 ②入退院支援 ③急変時の対応 ④看取り）ごとの現状を共有する。

主な意見から、今後の推進会議の取組を以下のように整理した。

	市の現状	主な意見	今後の方向性
日常の療養支援	かけはしいさはやが相談支援や情報提供を実施している。	在宅医や看護師、ヘルパーなどの人材が不足している。	適宜現状を把握しながら、相談支援や情報提供を実施する。
入退院支援	諫早市入退院支援連携ガイドブックで情報共有を支援している。	・退院から施設入所時の病院の医療連携室やケアマネジャーから在宅医への引継ぎが不足しているところがある。 ・多職種の連携が十分ではない。	<u>諫早市入退院支援連携ガイドブックは医療機関とケアマネジャーの情報共有を図るものであり、多職種での連携には対応できていないため、推進会議で検討したい。</u> ・アンケートの実施 ・協力医療機関の拡充 (精神科・市外医療機関)
急変時の対応	診療時間外の往診に対応する在宅医療機関の情報をかけはしいさはやのホームページに掲載している。	意見なし	必要に応じて見直しを行う。
看取り	ACPの普及啓発を行っている。 ・ACP市民講演会 ・専門職を対象にしたACP講演会 ・ACPの出前講座	・住宅や施設での看取りは未だ困難な現状がある。 ・家族が迷わないためにもACPは重要	ACPの普及啓発方法などを検証しつつ引き続き行う。 ・ACP市民講演会を介護の日のイベントと合わせて開催し、様々な世代が参加できるよう取り組む。 ・専門職を対象にしたACP講演会 ・ACPの出前講座